

計画改定の主旨（第1回協議会資料4より）

- ① 現行計画の枠組を基本とし、5年間の取組状況を振り返り、さらに強化すべきポイントについて計画内容の拡充を図ります。
- ② 近年の新たな社会動向を踏まえ、反映すべき新たな視点について取組を検討します。
- ③ 市の上位計画・関連計画（立川市長期総合計画、立川市都市計画マスタープラン、立川市環境基本計画等）、東京都の関連計画との整合、連携を図ります。

現行計画

目標期間 令和2～令和6年度（2020～2024）年度

基本理念 緑と人がつながり、ともに生きるまち 立川

緑の配置方針



- ◆ 骨格となる自然的・歴史的な緑
- ◆ 骨格や拠点を結ぶ緑の軸、緑のネットワークの形成
- ◆ 緑の拠点（大規模な都市計画公園・緑地）
- ◆ 身近な緑の拠点（街区公園等）
- ◆ 市民、事業者と協力

目標 達成状況

目標		指標	改定時 現状（H30 年度末）	目標 （R6年 度）	現状 （R5年 度）	達成 状況
緑の確保目標		市内の住宅地・商業地の緑が豊かだと感じる市民の割合	住宅地 18.7% 商業地 9.8%	現状維持	住宅地 23.6% 商業地 15.0%	達成
各 方 針 の 目 標	①緑を守り育む市民の活動を広げる	公園等清掃美化協力員会管理の公園数	73公園	76公園	73公園	未達成
	②市民と協力して自然的・歴史的な緑や郷土の緑を維持する	保存樹木数	478本	483本	432本	達成困難見込
		保護樹林地面積	17,578㎡	現状維持	14,060㎡	減少
		都市農地（生産緑地）の面積	199.92ha	190ha以上	186.21ha(R6.1.1)	達成困難見込
	③公園の整備を着実に進めるとともに、市民協働で公園の活用の幅を広げる	市が設置・管理する都市公園等面積	58.0ha	64.2ha	64.3ha	達成
		公園の柔軟な活用	—	モデル事業実施	モデル公園の選定	未達成

施策の実施状況（主な実績と課題）			重点的な取組	
基本方針	施策	○主な実績、 ▲主な課題		
緑と人のつながりを育み生かす 方針1	1.1 緑を知り、緑にふれあう機会の充実	○市ホームページでの情報発信、イベント開催や体験の機会の提供、新たな発信方法を検討 ▲発信内容の拡充、発信方法の検討	1. 立川の緑の情報と魅力の発信	
	1.2 多様な参加機会の創出	○団体活動についての周知 ▲参加につながる関心をいかに高めていくか	○緑化まつり開催（R4・5年度） ○パークフル等の活用を視野に事業者にヒアリング ○写真コンテストの実施。「立川育ち」を毎年発行し、農産物の紹介、災害時の農地利用を周知 ▲情報発信方法や機会の充実	
	1.3 創造的な活動の展開	○ガニガラ広場を拠点とした体験の場としての活用 ▲参加につながる関心をいかに高めていくか		
緑を守り生かす 方針2	2.1 立川崖線の緑の保全	○保護樹林地、矢川緑地の維持管理 ▲崖線の法面安定のための工事費	2. 立川公園ガニガラ広場を拠点とした活動の拡大	
	2.2 豊かな水辺の保全	○ボランティアによる保全活動、国・都との連携の強化、維持管理方法の明確化、健全な水循環回復に向けた取組 ▲生きものデータベースの活用・運営、雨水管理の継続	○田んぼづくりへの活動支援、体験学習の支援 ○サクラの手入れの活動支援、意見交換 ▲根川緑道の桜の老朽化への対応	
	2.3 武蔵野の面影を伝える緑の保全	○風致地区条例に基づくケヤキ並木の保全及び保存樹木・保護樹林制度による緑の保全 ▲ケヤキ並木や保存樹木等の協働による落ち葉の清掃の推進、地権者への苦情の軽減、ケヤキ並木の実態把握と保存の方法	3. 保存樹木、保護樹林地等の保全における市民、ボランティア団体との協働促進	
	2.4 農地の保全と活用	○特定生産緑地の指定、農地保全に係る制度の周知、農地の役割の周知、農体験の機会の提供 ▲農地への関わり方についての周知	○維持管理への活動支援、ナラ枯れの情報共有 ○団体活動について市ホームページや広報誌に掲載、緑化まつりで広報 ▲ボランティア団体を含めた情報交換会は未実施（コロナ禍）のため、情報交換会を実施	
緑の豊かさを高め生かす 方針3	3.1 開発事業等に合わせた緑の創出	○指導要綱による緑化指導 ▲事業者への普及啓発の拡充	4. 地域住民、民間事業者と連携した公園の柔軟な活用	
	3.2 緑の豊かさが感じられるまちなみづくり	○指導要綱による沿道部の指導、景観についての普及啓発 ▲さらなる普及啓発	○試行的に行う公園を選定 ▲地元との合意形成に時間を要す	
	3.3 地域の魅力となる公園づくり	○用地買収、公園施設の管理についての協議 ▲新規公園の整備方針についての再検討、提供公園など小規模な公園の整備方針や公園の使い方についてのルールの検討、公園の管理運営方針の作成、災害時の公園の活用方法についての周知	5. 安全で快適な公園利用を支える維持管理の推進	
	3.4 健全で豊かな道路の緑の育成	○新たな街路樹整備、街路樹調査、「街路樹のあり方方針」に基づく維持管理 ▲根上がりへの対応	○年に1回有資格者による遊具を点検 ○根川緑道の樹木点検を実施 ▲公園の管理運営方針を令和7年度末までに策定予定	
	3.5 公共施設の緑化推進	○基準を上回る緑化 ▲散水施設などのコストとのバランスが難しい		

市民アンケート		
基本方針	施策	市民アンケートにおいて関連する結果
方針1	1. 1	・公園利用頻度は前回から増加 ・公園利用目的「催し物に参加する」は前回よりやや減少 ・市民ができることとして「農地保全への協力」「庭やベランダで緑を育てる」「樹林地保全活動への参加」「地域の公園や緑地で清掃・除草・点検への協力」が多い ・農地の豊かさへの認識は少ない
	1. 2	・市民ができることとして「農地保全への協力」「樹林地保全活動への参加」多く、前回より増加（※前回の問は「あなたご自身はどのようなことができますと思いますか」）
	1. 3	・公園利用目的「催し物に参加する」、「植物の手入れや清掃などの活動に参加する」は前回よりやや減少 ・よく利用する近所の公園は「立川公園ガニガラ広場」との回答が多い
方針2	2. 1	・立川崖線の緑の保全の意識は相対的には高くはない
	2. 2	・多くの市民が水辺の豊かさを認識し、次世代に引き継ぎたい緑、今後の取組としても重要との認識も多い ・枯れ葉や折れた枝の清掃、老朽化樹木に対する改善を望む自由意見多数
	2. 3	・多くの市民が武蔵野の面影を伝える緑の豊かさを認識し、増加を望む意見も多い一方、世代に引き継ぎたい緑としては下位 ・市民ができることとして「樹林地保全活動への参加」が上位。前回から大幅に増加（※前回の問は「あなたご自身はどのようなことができますと思いますか」） ・農地や樹林を管理する人の高齢化や相続の問題で宅地化となる状況を理解しつつも懸念する自由意見あり
	2. 4	・「農地の緑」が10年前より減っていると感じる割合は前回より減少 ・農地の緑の豊かさを認識している市民は相対的に少なく、次世代に引き継ぎたい緑、今後の増えてほしい緑としては最下位 ・一方、市民一人一人が出来ることとしては「農地保全への協力」が最多。前回から増加（※前回の問は「あなたご自身はどのようなことができますと思いますか」）
方針3	3. 1	・10年前と比べて量が増えた緑として「商業地の緑」の回答が最多。前回よりも大きく増加
	3. 2	・住宅地の緑の豊かさを認識している市民は相対的に少ない ・今後増えてほしい緑として「住宅地の緑」の回答は全体の中ほど ・市民ができることとして「ブロック塀などを生垣に変える」は下位
	3. 3	・公園利用頻度は前回から増加 ・身近な公園で「子どもを遊ばせる」は前回から減少 ・身近な公園の不満点として、「樹木や草花の手入れが悪い」は12項目中上から5番目。前回からは減少。 ・立川市の取組として、「市民や事業者と連携した公園、広場などの管理・活用」を重要とする回答が増加 ・市民ができることとして「地域の公園や緑地で清掃・除草・点検への協力」が比較的多く、前回より大幅に増加（※前回の問は「あなたご自身はどのようなことができますと思いますか」）
	3. 4	・次世代に引き継ぎたいものとして「緑道や街路樹の緑（根川緑道、ケヤキ並木など）」が多い
	3. 5	—

法改正
・機能維持増進事業（仮称）の活用を見据えた特別緑地保全地区の指定の検討 ・「民間事業者等による緑地確保の取組を国土交通大臣が認定する制度」の活用促進
上位関連計画
広域 ・交流とイノベーション ・安心・安全・快適な暮らし ・自然との触れ合い ・広域にわたる骨格的な緑の保全と活用
総合計画 ・新型コロナウイルス感染症を含む危機管理 ・カーボンニュートラルやSDGsへの取組 ・DX、GXの加速化 ・人口減少・少子高齢化の本格的な進展 ・災害の頻発化・激甚化への対応 ・施設の老朽化
環境・景観 ・暮らしの安心 ・生きものと調和 ・資源の有効活用 ・地球温暖化防止 ・景観形成
都市マス ・骨格となる緑の保全とネットワークの形成 ・公園・緑地の計画的整備と更新 ・協働による公園・緑地の維持・管理
グリーンインフラの考え方における社会課題 ・「子育て」、「災害に強い都市の形成」が上位2位 ・「暑熱対策」、「良好な景観」、「保健福祉」が続く
立川に住み続ける意向 ・地域によって住み続ける意向がやや異なる
公園の利活用 ・公園の利用頻度が高くなってきている ・「一人で」「子どもと」の利用が多い
新たな視点（第1回協議会資料より）
社会動向
都市公園新時代／生物多様性国家戦略2023-2030／グリーンインフラ推進戦略2023／グリーンインフラ実践ガイド
緑の概況
・人口は令和10（2028）年にピークを迎えその後減少 ・宅地の増加と樹林、農地の減少 ・公園の新規開設 ・施設の更新、再整備等が課題 ・生産緑地の減少 ・保存樹木の減少、保護樹林は実質維持 ・市民協働の推進

課題
方針1： 緑と人のつながりを育み生かす ・情報発信は行っているが、地域との関わりや維持管理の行動への影響が限定的
方針2 緑を守り生かす ・既存制度を用い緑の保全を図っているが限界もあり、宅地は微増傾向 ・適正な維持管理については課題 ・保全や維持管理への協力の重要性は市民に理解されており、いかに行動につなげていただくかが課題
方針3： 緑の豊かさを高め生かす ・公園の利用頻度が増加傾向にある中で、公園での常時のルール作りや災害時の活用方法の周知が課題 ・公園の維持管理、今後の整備方針の検討が課題 ・事業者の緑への関わり活性化
「子育て」、「災害に強い都市の形成」をはじめ、幅広い社会課題解決の観点からの緑の活用に着目
地域との関わりや維持管理の行動につながる効果的な情報発信のあり方の検討
子育て世代の使いやすい公園等オープンスペースのあり方の検討
公園、農地の防災機能や災害時の活用を想定したあり方の検討
公園の利用方法のルール作りの推進
民間の力を緑の創出、マネジメントに導入する仕組みの検討
特別緑地保全地区等、市において未活用の制度導入の検討
身近な公園や樹林・樹木の維持管理への適切なリソース配分の検討
現行計画の、骨格、ネットワーク、緑の拠点の考え方を継承・拡充